

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成19年度病害虫発生予察注意報第4号について

平成19年度病害虫発生予察注意報第4号を発表したので送付します。

平成19年度病害虫発生予察注意報第4号

平成19年8月3日

宮崎県

病害虫名 トビイロウンカ、コブノメイガ
作物名 普通期水稻

1. 発生地域 県内全域

2. 発生程度 トビイロウンカ 多
コブノメイガ 多

3. 発生状況と注意報の根拠

1) トビイロウンカ

7月下旬の巡回調査における発生面積率26.5% (H17 0.0%、H18 3.3%)、株当たり虫数0.04頭 (H17 0.00頭、H18 0.00頭)は、いずれも被害の大きかったH17、H18年より多い。

2) コブノメイガ

(1)7月下旬の巡回調査における発生面積率は100% (平年65.5%) で平年より多く、このうち、発生程度中以上の発生面積率は8.8% (平年1.9%) で被害程度の高いほ場が多い。

(2)被害葉率2.3% (平年0.7%、前年2.1%) は、平年より多い。

3) その他

(1)主要飛来時期はトビイロウンカが7月4~6日、コブノメイガが7月9~11日であるが、前後の断続的な飛来により、地域やほ場によって生育ステージのばらつきが大きいと考えられる。

(2)向こう3ヶ月の長期予報では、8月・9月・10月の気温は平年並か高いと見込まれており、両種の増殖に好適な状況が続くと考えられる。(鹿児島地方气象台 7/25発表)

4. 防除上の注意

1) トビイロウンカの防除適期は8月3~4半旬(第1世代幼虫期)、コブノメイガの防除適期は8月2~3半旬(第1世代発蛾最盛期:粒剤)と8月3~4半旬(第2世代若齢幼虫期:散布剤)と考えられるが、地域やほ場により発生状況が異なることがあるので、ほ場の発生状況を確認した上で防除を行う。

病害虫防除情報 第2号 参照(平成19年7月27日発表)

2) トビイロウンカは低密度に見えても、増殖率が高く、株元に集中して加害し、秋には高密度となって坪枯れを引き起こす。ほ場の分布は局部的であるので、ほ場全体の発生状況を的確に把握し、防除を徹底する。

(要防除水準:8月上旬の短翅型雌成虫 株当たり0.2頭)

3) コブノメイガは出穂前の上位葉の被害により、玄米の充実に及ぼす影響が大きいので防除を徹底する。

4) 防除薬剤等その他の詳細については、宮崎県病害虫防除・肥料検査センター、各農業改良普及センター等関係機関に照会すること。

5) ポジティブリスト制度の施行に伴い、農薬の使用については今まで以上に厳重な注意を払い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努める。

連絡先
宮崎県病害虫防除・肥料検査センター
加治佐光洋 櫛間義幸
TEL:0985-73-6670
FAX:0985-73-7499